

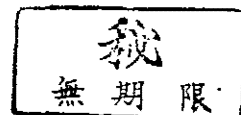
琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係/日米協議委員会開催関係

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43726

會議資料

(完備)



沖縄に関する日米協議委員会
第14回会合

議長用メモ

昭和43年7月1日

(着席)

(報道関係者は、あらかじめ所定の位置に入場、写真撮影の後退場)

1. (開会及び議事日程採択)

「只今より、沖縄に関する協議委員会の第14回会合を開催いたします。」

(通訳)

「まず、ジョンソン大使から米側出席者の御紹介があると承知しております。大使どうぞ。」

(ここで、ジョンソン大使より、米側出席者一氏名列挙のこと一紹介)

「大使、ありがとうございました。私は、本委員会の議長として、また日本側を代表して、アンガー高等弁務官、バージャー公使、スナイダー渉外局長及びカニンガム書記官の参加を歓迎いたします。」

(通 訳)

「それでは、本日の議題についてお諮りいたします。お手許にお配りした議事日程に御異議ありませんか。」

(通 訳)

(米側より異議なき旨発言)

「御異議がなければ、これにて議事を進めます。」

(通 訳)

2. (議題 / 沖縄と本土との一体化)

「それでは、議題 / の沖縄と本土との一体化についての討議に移ります。まず、アンガー高等弁務官より、去る3月 / 日の第 / 回会合以降今日までの高等弁務官に対する諮問委員会の活動について、報告があると承知しております。アンガー高等弁務官どうぞ。」

(通 訳)

(アンガー高等弁務官報告)

(通 訳)

「アンガー高等弁務官ありがとうございました。日本側を代表しまして、日米琉諮問委員会が発足以来の活潑な活動を通じて、沖縄と本土との間の一体化の促進に大きな貢献をしていることに対し、日本政府としても深く満足していることをお伝えするとともに、同委員会の活動に対する高等弁務官の御理解と御協力に感謝いたします。日本政府としては、今後とも、諮問委員会の場を十分活用し、沖縄と本土との間の一体化の促進に努力して行く決意であります。

ここで、田中総務長官から、一体化の今後の進め方に関する日本政府の基本的考え方について説明があると承知しております。田中総務長官どうぞ。」

（通 訳）

（田中総務長官発言）

（通 訳）

3. (議題 2 昭和 44 年度日本政府对沖縄援助)

「ありがとうございました。次に議題 2 昭和 44 年度日本政府对沖縄援助に移りたいと思います。

ジョンソン大使より、御発言があると承知しております。ジョンソン大使どうぞ。」

(通 訳)

(ジョンソン大使発言)

(通 訳)

「ジョンソン大使ありがとうございました。日本政府の来年度対沖縄援助につきましては、目下検討中の段階であり、この時点で確定的なことは申せませんが、今後検討を進めて行く過程において、ただいまのジョンソン大使の御発言の点も含め、慎重に検討して行きたいと考えます。」

(通 訳)

4. (議題 3 国政参加)

「次に議題 3 の国政参加に移りたいと考えます。

施政権返還に備えて、沖縄と本土との一体化を進めて行く過程において、本土における沖縄政策の決定になんらかの形で沖縄住民の意見を反映せしめたいという沖縄住民の願望には、十分理解しうるものがあります。

さらに主席公選実現後、沖縄をめぐる政治問題の中心は、国政参加問題にあるといつても過言ではなく、本問題の帰すうは、今後の沖縄住民の日米協力体制に対する基本的態度に影響するところがきわめて大きいと考えられます。従つて、この段階でなんらかの形で沖縄住民の国政参加を実現することが望ましいと考えます。日本側においても、国内法上の問題等国政参加に係わる諸問題につき、目下検討を進めております。この機会に日本側を代表して、本問題の早期実現方につき、米国政府の好意的配慮をお願いいたします。

ここで田中総務長官より御発言があると承知しております。田中総務長官どうぞ。」

(通 訳)

(田中総務長官発言)

(通 訳)

「どうもありがとうございました。ここでジョンソン大使より御発言があると承知しております。ジョンソン大使どうぞ。」

(通 訳)

(ジョンソン大使発言)

(通 訳)

5. (議題4 インドネシア水域における沖縄漁船の安全操業問題)

「どうもありがとうございました。次に、議題4のインドネシア水域における安全操業問題に移りたいと考えます。

日本側を代表して、本問題に関する最近の日本、インドネシア両政府間交渉の経緯を御説明したいと考えます。ジャカルタでの日本とインドネシアとの間の漁業委員会において、インドネシア周辺水域における日本漁船の操業問題につき、昨年末以来日「イ」双方の法律上の立場

はそれぞれ留保したまま、實際的解決をはかるため話し合いが行なわれてきた。これまでのところ、港湾施設を使用するための料金として70トン未満の漁船については300ドル、70トン以上の漁船については390ドルを支払うことにより、250隻の漁船が年間1万5,000トンの漁獲をあげることが合意されているが、その他若干の問題については未だ最終的合意が成立していない。日本政府としてはかねてより沖縄漁船についても日本漁船に関する同一方式で、早急に解決することが望ましいとの立場をとつてきた。

沖縄漁船の操業問題については、5月16日付在京米国大使館の口上書の趣旨にかんがみ、隻数及び漁獲高について本土漁船の外枠としてその解決をはかるとの原則で、日本政府がインドネシア政府と折衝することを申入れてきたが、インドネシア政府は最近に至りこの原則に同意した。

沖縄漁船の過去の実績にかんがみ、沖縄の関

係者は70隻の漁船による年間5,000トンの漁獲高を確保したいとの希望を表明しているので、6月26日の会合でこの旨インドネシア政府に提案したところ、インドネシア政府はこれをtake noteする旨述べた。そこで29日の会合で日本政府は、沖縄漁業者の代表の参加をえて、沖縄漁船の操業の実績を説明することを提案した次第であり、可及的すみやかに関係者すべてに納得のゆく解決に到達するよう最大の努力を続ける所存である。」

(通 訳)

6. (議題5—新聞発表についての合意)

「最後に、議題5の新聞発表振りについてお諮りいたします。事務当局で用意した発表文案をお手許にお配りしてありますが、これを報道関係者に配付し、それによつて説明を行なうこととしたいと考えますが、御異議ありませんか」

(通訳)

(米側より同意する旨表明)

「では、新聞発表については、只今申し上げたとおり運ぶことに決定いたしました。」

(通訳)

7. 閉会

「本日の委員会は、皆様の御協力をもつてきわめて円滑に議事を進めることができました。皆様の御協力を感謝いたします。第14回協議委員会は、これをもつて閉会いたします。ありがとうございました。」

(通訳)

沖縄に関する日米協議委員会
の第14回会合

議事日程（案）

昭和43年7月1日

議事日程の採択

1. 沖縄と本土との一体化
 - (1) 日米琉諮問委員会の活動に関するアングー
高等弁務官の報告
 - (2) 一体化の基本方針
2. 昭和44年度日本政府対沖縄援助
3. 国政参加
4. インドネシア水域における沖縄漁船の安全操
業問題
5. 新聞発表についての合意

CONFIDENTIAL

The 14th Meeting of the Japan-United States Consultative Committee on Okinawa

July 1, 1968

Draft Agenda

Adoption of Agenda

1. ITTAIKA between Okinawa and Japan proper.
 - (a) A Report of General Unger, High Commissioner of the Ryukyu Islands, on the activities of the Advisory Committee to the High Commissioner.
 - (b) The basic policy for the promotion of ITTAIKA.
2. The Japanese Government's assistance program to the Ryukyu Islands for JFY 1969.
3. Diet participation.
4. ~~Safety~~ Operation of Okinawan fishing vessels in the waters between the Indonesian Islands.
5. Agreement on Statement to the press.

沖縄に関する日米協議委員会
第14回会合における田中総
務長官発言

(議題1.(2) 一体化の基本方針)

昭和43年7月1日

1. ただいまは、アンガー高等弁務官から佐藤・
ジョンソン共同声明に基づいて、今日まで進め
られてきた本土と沖縄の一体化施策についての
日米琉諮問委員会の活動状況につき詳細な報告
がなされました。

去る1月私が沖縄を訪問してアンガー高等弁
務官と会談した際、高等弁務官は、沖縄は日米
両国にとつて新時代を迎えたのであり、今後は
沖縄の本土復帰にそなえて、一体化施策を大い
に進めよう、そのためには日米琉諮問委員会を
大いに活用していきたい旨を私に申されました。
私も、当時高等弁務官の意見と全く同感であつ
たのでありますが、ただいまの報告を拝聴して
意を強うし、アンガー高等弁務官の御努力を多
とするものであります。今後さらにこの一体化
施策が日米琉3政府の協力によつてさらに具体

的、かつ、実質的なものとして計画的に強く推進されることを期待してやみません。

2. 本土と沖縄の一体化施策の具体的内容及びその進め方等については、ただいまも御説明のありました日本政府調査団の報告書によつて一層明らかにされるところと存じますが、私は、一体化施策の内容として、沖縄の特定行政分野の水準の向上、あるいは~~特定~~福祉分野のレベルアップが重要な施策であると思いますが、同時に、「沖縄の本土復帰に備えての摩擦や困難」を除去するという意味からいえば、琉球政府の現に果している国政事務はしばらく別として、琉球政府及び市町村を本土の県及び市町村の体制に逐次切りかえて行くための慎重な準備、すなわち、沖縄における全行政、財政分野を含めた制度面での本土との統一化ないし統合化の準備の重要性も忘れ~~られ~~てはならないと存じます。

このようにみるとき、今後の本土と沖縄の一体化施策の遂行に伴う諸問題の処理にあたつて、私は、沖縄の施政権をもつておられる米側にお

いて、深い理解と弾力的な態度を示されるよう
望みます。

3. 最後に、今秋は主席公選及び立法院議員選挙をひかえております。本土政府としては、かねてから沖縄に政治的安定がもたらされることに強い関心と期待を持つてきたのでありまして、今後ともこれがためできる限りの努力をいたしたいと存じます。米側におかれても、さきの本土の通常国会において論議のありました基地周辺に惹起する問題等施政上のさまざまな問題の処理にあたつては、特に格別慎重な態度をもつて臨まれるよう、私はこの際お願いいたす次第であります。

ありがとうございます。

沖縄に関する日米協議委員会
第14回会合における田中総
務長官発言
(議題3 国政参加)

昭和43年7月1日

さきに三木大臣から申されました沖縄住民の国政参加について私からも一言申し添えたいと存じます。

沖縄の人々が本土復帰にそなえて、本土と沖縄の一体化施策や困難な沖縄経済の将来計画等について、沖縄住民の意見をなんらかの形で日本の国会に反映したいという願望は、沖縄の今日までの歴史にても、私どもとしては強い共感をもつのであります。また、この問題が今秋にかけての沖縄での一大政治課題となつてきている点をも考慮し、私は施政権者としての米側としても問題があり、また受入れる日本側にも種々問題のあることは承知しておりますが、この問題についてできるだけ早期に、日米双方の満足しうる合意に達することを強く期待するものであります。

沖繩に関する日米協議委員会第十四回会合の
開催について（案）

昭和四十三年七月一日

一 沖繩に関する日米協議委員会第十四回会合は、七月一日午前十時から日本側三木外務大臣、田中総務長官、米国側ジョンソン駐日米国大使、アングー高等弁務官出席の下に外務省で開かれた。

二 今回の会合においては、まず沖繩と本土との一体化に関連する問題について、次のとおり意見の交換が行なわれた。

アングー高等弁務官より、日米琉諮問委員会の本年三月一日発足以来の活動に関する報告を行ない、日米双方とも諮問委員会の活動が沖繩と本土との一体化の促進に大きく貢献していることに満足の意を表明した。

続いて、田中総務長官より、日本政府の一体化に関する考え方を説明し、今後日米琉三政府の緊密な協力の下に、総合的、かつ、

組織的に具体的な一体化施策を講じて行く必要があることを強調した。

ジョーンソン大使は、これを歓迎するとともに、米側としても今後一体化の進展に伴い生ずべき諸問題につき、弾力的な態度で協力する旨述べた。

三 さらにジョーンソン大使は、今後の一体化の具体的計画における日本政府援助の重要性を強調し、今秋でできるだけ早い時期に、日本側の来年度援助の具体的な考え方を示されることが望ましいと述べた。これに関連して同大使は、保健及び社会福祉の面での一体化に重点をおいてほしい旨要望し、日本側よりそれらの点を含めて今後十分検討して行きたいと述べた。

四 国政参加問題について、三木外務大臣及び田中総務長官より、この段階においてなんらかの形で沖縄住民の国政参加が望ましいので、日本側としても、法律上の問題等国内的な問題の解決につき検討し

ている旨述べ、米国政府においても、その早期実現につき、好意的配慮をしてほしいと要請した。それに対しジョンソン大使は、国政参加問題は米国政府にとつても多くの困難な問題を含んでおり、この場で日本側の要請に対する明確な回答をすることはできないが、米国政府としては、日本側の検討の結果を逐次通報してほしい旨答えた。

CONFIDENTIAL

(Draft)

Press Release on the 14th Meeting of
the Consultative Committee on Okinawa

July 1, 1968

1. The Fourteenth Meeting of the Consultative Committee on Okinawa was held at the Ministry of Foreign Affairs at 10 o'clock on July 1, 1968. Foreign Minister Takeo Miki and Director-General Tatsuo Tanaka of the Prime Minister's Office represented the Japanese Government and Ambassador U. Alexis Johnson and High Commissioner of the Ryukyu Islands Lt. General F.T. Unger represented the United States Government at the Meeting.
2. In the course of discussions at the Meeting, the following exchange of views took place with respect to questions related to the promotion of "ITTAIKA" (integration and identification) between Okinawa and Japan proper.

General Unger made a report to the Consultative Committee on the activities of the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands in the period since its establishment on March 1, 1968. Both the Japanese and American participants at the Meeting recognized with satisfaction that the Advisory Committee has been making great contributions to the promotion of "ITTAIKA" between Okinawa and Japan proper.

Director-General Tanaka presented the views of the Government

of

of Japan on the question of "ITTAIKA" and emphasized that in the future course of the implementation of "ITTAIKA" programs, measures should be taken in a comprehensive and systematic manner with close cooperation among the Governments of Japan, the United States and the Ryukyu Islands.

Ambassador Johnson welcomed the statement of the Director-General and stated that the United States is prepared to extend cooperation in a flexible manner toward the solution of problems which might arise in the future course of the promotion of "ITTAIKA".

3. Ambassador Johnson further emphasized the importance of the Japanese Government assistance program in the implementation of "ITTAIKA" programs and stated that it would be desirable if the Japanese Government could give some indication of the details of its planning with respect to the Japanese assistance program for the next fiscal year at the earliest possible date this autumn. In this connection, the Ambassador suggested that priority be given to "ITTAIKA" in the field of health and social welfare. The Japanese side stated that it would give active consideration to the Ambassador's suggestions, with particular attention to his proposal concerning "ITTAIKA" in the field of health and social welfare.

4. With respect to the question of "Diet participation", Foreign Minister Miki and Director-General Tanaka stated that Okinawan

participation

participation in some form in the deliberations of the Japanese Diet would at this stage be desirable, and that study is being given by the Japanese side to the solution of the legal and other problems which would be involved domestically. Accordingly, the two Ministers asked that the United States Government give favorable consideration to the early realization of Okinawan participation in the Japanese Diet. Ambassador Johnson stated that he is not in a position to make any comment on the Japanese suggestion at this stage, since the question of "Diet participation" involves numerous difficulties for his Government. The Ambassador added that the United States Government wishes to be kept informed of the progress of the study of this question by the Japanese side.

沖縄に関する日米協議委員会
(第14回)出席者

昭和43年7月1日

日本側

三木	武夫	外務大臣
田中	龍夫	総理府総務長官
東郷	文彦	外務省アメリカ局長
山野	幸吉	総理府特別地域連絡局長
大河原	良雄	外務省アメリカ局外務参事官
加藤	泰守	総理府特別地域連絡局参事官
及川	謙三	総理府特別地域連絡局総務課長
千葉	一夫	外務省アメリカ局北米課長

米側

U・アレクシス・ジョンソン	駐日大使
フェルディナンド・T・アングー	琉球諸島高等弁務官
ハーマン・バージャー	米国大使館公使
リチャード・スナイダー	琉球諸島米国民政府渉外局長
ウィリアム・J・カニングム	米国大使館一等書記官
ジェームズ・J・ウィッケル	// 二等書記官

The 14th Meeting of
the Consultative Committee
on Okinawa

July 1, 1968

Participants

Japanese Side

Hon. Takeo Miki	Minister for Foreign Affairs
Hon. Tatsuo Tanaka	Director-General, Prime Minister's Office
Mr. Fumihiko Togo	Director-General, American Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs
Mr. Kokichi Yamano	Director, Special Areas Liaison Bureau, Prime Minister's Office
Mr. Yoshio Okawara	Assistant Director, American Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs
Mr. Yasumori Kato	Counsellor, Special Areas Liaison Bureau, Prime Minister's Office
Mr. Kenzo Oikawa	Head, General Affairs Division, Special Areas Liaison Bureau, Prime Minister's Office
Mr. Kazuo Chiba	Head, North America Division, American Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs

U.S. Side

H.E. Mr. U. Alexis Johnson	Ambassador of the United States of America
Lt. Gen. Ferdinand T. Unger	High Commissioner of the Ryukyu Islands
Mr. Herman Barger	Minister for Economic and Commercial Affairs, Embassy of the United States of America

Mr. Richard Snyder	Director, Liaison Department, United States Civil Administration of the Ryukyu Islands
Mr. William J. Cunningham	First Secretary, Embassy of the United States of America
Mr. James J. Wickel	Second Secretary, Embassy of the United States of America

第 / 4 回 日 米 協 議 委 員 会

座 席 配 置

昭和 4 3 年 7 月 / 日
外務大臣接見室において

千葉 北米課長	○	
大河原 外務参事官	○	○ スナイダー渉外局長 (Richard Snyder)
東郷 アメリカ局長	○	○ アンガー高等弁務官 (Ferdinand T. Unger)
三木 外務大臣	○	○ ジョンソン大使 (U. Alexis Johnson)
田中 総務長官	○	○ バージャー公使 (Herman Barger)
山野 特連局長	○	○ カニンガム書記官 (William J. Cuningham)
加藤 総理府参事官	○	○ ウィッケル書記官 (James J. Wickel)
及川 総務課長	○	

沖縄に関する日米協議委員会
第 / 4 回 会 合

議長用メモ

昭和43年7月 / 日

(着 席)

(報道関係者は、あらかじめ所定の位置に入
場、写真撮影の後退場)

1. (開会及び議事日程採択)

「只今より、沖縄に関する協議委員会の第
/ 4 回 会 合 を 開 催 い た し ま す 。 」

(通 訳)

「まず、ジョンソン大使から米側出席者の御紹介が
あると承知しております。大使どうぞ。」

(ここで、ジョンソン大使より、米側出席者
一氏名列挙のこと一紹介)

「大使、ありがとうございました。私は、本
委員会の議長として、また日本側を代表して、
アングー高等弁務官、バージャー公使、スナイ
ダー渉外局長及びカニンガム書記官の参加を歓
迎いたします。」

(通 訳)

「それでは、本日の議題についてお諮りいたします。お手許にお配りした議事日程に御異議ありませんか。」

(通 訳)

(米側より異議なき旨発言)

「御異議がなければ、これにて議事を進めます。」

(通 訳)

2. (議題 / 沖縄と本土との一体化)

「それでは、議題 / の沖縄と本土との一体化についての討議に移ります。まず、アンガー高等弁務官より、去る3月 / 日の第 / 回会合以降今日までの高等弁務官に対する諮問委員会の活動について、報告があると承知しております。アンガー高等弁務官どうぞ。」

(通 訳)

(アンガー高等弁務官報告)

(通 訳)

「アンガー高等弁務官ありがとうございました。日本側を代表しまして、日米琉諮問委員会が発足以来の活潑な活動を通じて、沖縄と本土との間の一体化の促進に大きな貢献をしていることに対し、日本政府としても深く満足していることをお伝えするとともに、同委員会の活動に対する高等弁務官の御理解と御協力に感謝いたします。日本政府としては、今後とも、諮問委員会の場を十分活用し、沖縄と本土との間の一体化の促進に努力して行く決意であります。

ここで、田中総務長官から、一体化の今後の進め方に関する日本政府の基本的考え方について説明があると承知しております。田中総務長官どうぞ。」

（通 訳）

（田中総務長官発言）

（通 訳）

3. (議題 2 昭和 44 年度日本政府対沖縄援助)

「ありがとうございました。次に議題 2 昭和 44 年度日本政府対沖縄援助に移りたいと思います。

ジョンソン大使より、御発言があると承知しております。ジョンソン大使どうぞ。」

(通 訳)

(ジョンソン大使発言)

(通 訳)

「ジョンソン大使ありがとうございました。日本政府の来年度対沖縄援助につきましては、目下検討中の段階であり、この時点で確定的なことは申せませんが、今後検討を進めて行く過程において、ただいまのジョンソン大使の御発言の点も含め、慎重に検討して行きたいと考えます。」

(通 訳)

4. (議題 3 国政参加)

「次に議題 3 の国政参加に移りたいと考えます。

施政権返還に備えて、沖縄と本土との一体化を進めて行く過程において、本土における沖縄政策の決定になんらかの形で沖縄住民の意見を反映せしめたいという沖縄住民の願望には、十分理解しうるものがあります。

さらに主席公選実現後、沖縄をめぐる政治問題の中心は、国政参加問題にあるといつても過言ではなく、本問題の帰すうは、今後の沖縄住民の日米協力体制に対する基本的態度に影響するところがきわめて大きいと考えられます。従つて、この段階でなんらかの形で沖縄住民の国政参加を実現することが望ましいと考えます。日本側においても、国内法上の問題等国政参加に係わる諸問題につき、目下検討を進めております。この機会に日本側を代表して、本問題の早期実現方につき、米国政府の好意的配慮をお願いいたします。

ここで田中総務長官より御発言があると承知しております。田中総務長官どうぞ。」

(通 訳)

(田中総務長官発言)

(通 訳)

「どうもありがとうございました。ここでジョンソン大使より御発言があると承知しております。ジョンソン大使どうぞ。」

(通 訳)

(ジョンソン大使発言)

(通 訳)

5. (議題 4 インドネシア水域における沖縄漁船の安全操業問題)

「どうもありがとうございました。次に議題4のインドネシア水域における安全操業問題に移りたいと考えます。」

日本側を代表して、本問題に関する最近の日本、インドネシア両政府間交渉の経緯を御説明します。ジャカルタでの日本とインドネシアとの間の漁業委員会において、インドネシア周辺水域における日本漁船の操業問題について、昨年^{以来}日本、インドネシア双方の法律上の立場

インドネシア水域における沖縄漁船の操業問題
に言及したい。

本土漁船についての対インドネシア交渉はようやく最終段階にきているが、日本政府は、施政権者たる米国政府の了解をえて、沖縄漁船も本土漁船と同様の条件で操業できるようインドネシア政府と話合っている。

詳細は事務当局から米大使館に連絡しているので、この席では省略するが、米側においても、わが方が本件対インドネシア交渉に折角努力中なることを念頭において貰いたい。↓

6. (議題5—新聞発表についての合意)

「最後に、議題5の新聞発表振りについてお諮りいたします。事務当局で用意した発表文案をお手許にお配りしてありますが、これを報道関係者に配付し、それによつて説明を行なうこととしたいと考えますが、御異議ありませんか。」

(通 訳)

(米側より同意する旨表明)

「では、新聞発表については、只今申上げたとおり運ぶことに決定いたしました。」

(通 訳)

7. 閉 会

「本日の委員会は、皆様の御協力をもつてきわめて円滑に議事を進めることができました。皆様の御協力を感謝いたします。第14回諮議委員会は、これをもつて閉会いたします。ありがとうございました。」

(通 訳)

インドネシア水域における沖縄艦船の

操業内容に言及したい。

本土艦船に比べて、対イ立場はようやく

最終段階にまで進んでいるが、日本艦船は

施設者たる米系船所の了解を得て

沖尾 船も 本土 船と同様の条件

で 操業して 来るよう インドネシア 政府と

社会 している。

詳細は 事務 局から 米上 陸後に

連絡して いるので、此の 席では 省略

すが、半断にありても
 何か方が本件
 対し、お角寄力申上ることを
 念頭にありて世にまかせ

インドネシア水域における沖縄漁船の操業問題
に言及したい。

本土漁船についての対インドネシア交渉はようやく最終段階にきているが、日本政府は、施政権者たる米国政府の了解をえて、沖縄漁船も本土漁船と同様の条件で操業できるようインドネシア政府と話合っている。

詳細は事務当局から米大使館に連絡しているので、この席では省略するが、米側においても、わが方が本件対インドネシア交渉に折角努力中なることを念頭において貰いたい。

Chairman's memo on the proceedings
of the Fourteenth meeting of
the Japan-U.S. Consultative Committee
on Okinawa

July 1, 1968.

(Participants take seat)

(Cameramen are allowed to take picture and retire on completion)

~~1 (Opening and adoption of the agenda)~~

"I should like to open the 14th Meeting of the Consultative Committee on Okinawa."

~~(Interpreted)~~

"I understand that Ambassador Johnson wishes to introduce to us new participants on the United States side. Ambassador Johnson, please."

~~(Interpreted)~~

~~(U.S. participants introduced)~~

~~(Interpreted)~~

"Thank

"Thank you very much, Ambassador Johnson. As Chairman of this Committee and also on behalf of the Japanese participants to the Committee, I should like to express my heart-felt welcome to General Unger, Minister ^aBerger, Mr. Snyder and Mr. Cunningham.

~~(Interpreted)~~

"Now, I should like to consult with you on the agenda for today's Meeting. Is there any objection to the adoption of the draft agenda which has been distributed to you?"

~~(Interpreted)~~

~~(U.S. side will say that it has no objection)~~

~~(Interpreted)~~

"As there is no objection, I declare that the agenda has been adopted."

~~(Interpreted)~~

2. ~~(Agenda Item No. 1. "ITTAKA between Okinawa and Japan proper".)~~

The

The Committee now proceeds to the first item on the agenda, "ITTAIKA between Okinawa and Japan proper." I understand that General Unger will make a report on the activities of the Advisory Committee to the High Commissioner ⁴ the Ryukyu Islands in the period since its first meeting of the Committee on March 1, 1968. General Unger, Please."

(Interpreted)

(A report by General Unger)

(Interpreted)

"Thank you very much, General Unger. On behalf of the Japanese side, I would like to state that the Japanese Government is deeply satisfied with the fact that the Advisory Committee, by its vigorous activities since its establishment, has been making great contributions to the promotion of "ITTAIKA between Okinawa and Japan proper.

7

At

At the same time, I would like to express my heart-felt gratitude to you, General Unger, for your understanding and cooperation toward the activities of the Advisory Committee.

The Japanese Government is determined to make further efforts in the future to fully utilize the Advisory Committee so as to promote ITTAIKA between Okinawa and Japan proper.

I understand [Director-General Tanaka wishes to explain the basic policy of the Japanese Government on the promotion of ITTAIKA. Director-General Tanaka, please.

~~(Interpreted)~~

~~(Director-General Tanaka's statement)~~

~~(Interpreted)~~

~~"Thank you very much Director-General."~~

3.

Statement of Director-General Tanaka on "the basic policy for the promotion of ITTAIKA".

July 1, 1968.

I heard with deep interest, the detailed report of General Unger on the activities of the Advisory Committee for the promotion of ITTAIKA between Okinawa and Japan proper which have been carried out on the basis of the Joint Communique between Prime Minister Sato and President Johnson.

On the occasion of my last visit to Okinawa, General Unger told me that Japan-United States cooperation on Okinawa has entered into a new era, and that, in preparation for the return of Okinawa to Japan proper, ITTAIKA measures should be positively promoted in the days to come. General Unger further expressed the wish to make much use of the Advisory Committee for this purpose.

At

At that time, I entirely agreed with General Unger. The statement which I have now heard from General Unger encouraged me further.

On this occasion I wish to express my deep appreciation of General Unger's efforts.

It is my sincere wish that, with close cooperation among the Governments of Japan, the United States and the Ryukyu Islands, ITTAIKA measures in more specific and substantial terms will be positively carried out in a systematic manner.

2. The details of ITTAIKA measures and the actual program of their implementation will be further clarified in a report of the Japanese Government Survey Mission, which has been referred to by General Unger. I believe that among ITTAIKA measures, the improvement of standards in

the

the specific fields of administration and welfare in Okinawa are particularly important. At the same time, from the standpoint of making preparations for the reversion of Okinawa by eliminating frictions or difficulties which might arise at the time of reversion, it is also important to make careful preparations to change gradually the administrative structure of the Government of the Ryukyu Islands ~~and~~, leaving aside for the moment its *into that of a prefecture of Japan proper as well as* national functions, to gradually transform the structure of municipalities into that of ~~prefectures and~~ municipalities of Japan proper. In other words, the importance of preparations for identification or integration between Okinawa and Japan proper in all institutions including administrative and financial fields should not be forgotten.

In view of these requirements, it is my wish that the

United

United States, which maintains administrative rights over Okinawa, will extend a deep understanding and cooperation towards the solution of problems which might arise in the future course of promotion of ITTAIKA measures.

This autumn
3. ~~Finally in view of~~ the elections of a Chief Executive and members of the Legislature ~~which~~ will be conducted.

The Japanese Government has been expecting with deep interest this autumn, I strongly wish that political stability be,

~~by all means~~ brought about in Okinawa. For this purpose,

wishes to exert
the Government of Japan ~~will make~~ as much effort as possible

in the days to come. In this connection, I wish to take

this opportunity to request the United States to take a

particularly cautious attitude in dealing with problems *related to administration such as those*

(occurring around the United States Military bases in

Okinawa, which became a subject to debate during the

last regular session of the Diet in Japan proper."

(interpreted)

"I thank you very much, Director General Tanaka."

3. ~~(Agenda Item No. 2: "The Japanese Government's assistance program to the Ryukyu Islands for JFY 1969".)~~

The Committee now proceeds to the Agenda item No. 2,
"The Japanese Government assistance program to the Ryukyu
Islands for JFY 1969.★"

I understand Ambassador Johnson wishes to make remarks,
Ambassador Johnson, please."

~~I~~
~~(Interpreted)~~

~~(Ambassador Johnson's remarks)~~

~~I~~
~~(Interpreted)~~ ...

"Thank you very much, Ambassador Johnson.

With respect to the Japanese Government assistance
program to the Ryukyu Islands for JFY 1969, I am not in a
position to give a definite reply to the suggestion of the
Ambassador at this stage, because the program is still being
studied by the Government of Japan. However, in the process

of

of determining our assistance program for JFY 1969, the Government of Japan will give careful consideration to the Ambassador's suggestion."

~~(Interpreted)~~

~~4. (Agenda item 3 Diet Participation)~~

The Committee now proceeds to the Agenda item 3, "Diet participation."

There is a strong desire on the part of the Okinawan residents to have their views reflected, in some form, in the decision-making of the Japanese Government on matters related to Okinawa, and by doing so to promote ITTAIKA between Okinawa and Japan proper in preparation for the reversion of administrative rights.

This desire of the Okinawan residents is well understandable.

It

Inⁿ addition, it is no exaggeration to say that since theⁿⁿ announcement of the public election of the Chief Executive, political questions concerning Okinawa has been centering around the question of "Diet participation". Accordingly, I think that the final outcome of this question will have a great influence on the fundamental attitude of Okinawan

residents to the system of Japan-United States cooperation

on Okinawa. *at this stage*
Therefore, it would be desirable to realize some form of Okinawan participation in the deliberations of the Japanese Diet.
The Japanese side is now making active study of legal and other problems which would be involved domestically.

On behalf of the Japanese side I would like to take this opportunity to request a favorable consideration on the part of the United States Government toward its early realization.

I understand that Director-General Tanaka I wishes to make remarks. Director-Tanaka, please."

Statement of Director-General Tanaka
on "Diet participation"

July 1, 1968

I wish to add briefly to what Foreign Minister Miki stated on the question of Okinawan participation in the deliberations of the Japanese Diet.

With respect to the desire of Okinawan residents to have their opinion reflected in some form in the deliberations of the Japanese Diet concerning ITTAIKA measures for future programs for ~~difficult~~ *which maintains many difficulties* economy of Okinawa, we are in strong sympathy with such desire, in the light of the history to date of the islands.

We are well aware of the fact that this question poses numerous difficulties on the United States which maintains administrative rights over the islands as well as on the Japanese side which is to receive Okinawan representatives.

However,

However, in view of the fact that this will become one of the greatest political issues in Okinawa toward this autumn, I strongly wish that a mutually satisfactory agreement will be reached on this question between Japan and the United States at the earliest possible time.

~~I understand that Director-General Tanaka wishes to
make remarks. Director General Tanaka please.~~

~~(Interpreted)~~

"Thank you very much, Director-General Tanaka."

I understand that Ambassador Johnson wishes to make
remarks. Ambassador Johnson, please."

~~(Interpreted)~~

"Thank you very much, Ambassador Johnson."

~~5. (Agenda Item No. 4: ~~"Safety"~~ Operation of Okinawan fishing
vessels in the waters between the Indonesian waters.)~~

Now the Committee proceeds to the Agenda item No. 4.

~~"Safety"~~ Operation of Okinawan fishing vessels in the waters
between the Indonesian waters.

On behalf of the Japanese side, I would like to make a
brief report on the negotiations to date with the Indonesian
Government.

With respect to the question of operations of Japanese fishing vessels in the waters around Indonesia, talks have ^{going on} been ~~conducted~~ since the end of last year in the Japan-Indonesia Special Body established in Djakarta. In the course of discussions, both Japanese and Indonesian sides have reserved their respective legal positions with a view to finding a practical solution on the question. It has been agreed so far between the two sides that a total of 250 Japanese fishing vessels ^{may} ~~can~~ operate and catch ^{up to} ~~to the extent of~~ 15,000 tons of tuna ^{with the payment of fees} ~~for~~ each year ~~by paying a fee~~ for the use of harbor facilities, \$300 for ^a ~~each~~ vessel ^{of} less than 70 gross tons and \$390 for a vessel ^{of more} ~~not less~~ than 70 gross tons. However, final agreement has not been reached since there are some other matters yet to be solved.

With respect to Okinawan fishing vessels, the Government of Japan has maintained the position that it would be desirable position

ts.

to bring about an early settlement ^{based upon} ~~in accordance with~~ the same formula.

Accordingly, in the light of the note of the United States Embassy dated May 16, the Government of Japan proposed to the Indonesian Government to hold discussions to find a ^{question of} ~~solution~~ in order to settle the question on the operation of Okinawan vessels ~~on a principle~~ ^{by securing} ~~of establishing~~ a separate quota ^{for the Okinawans in} ~~for~~ the number of vessels and the ~~total~~ amount of catch. The Indonesian Government has recently agreed to this proposal.

The Okinawan fishing industry has expressed the desire to secure the annual catch of 5,000 tons by 70 fishing vessels on the basis of their past fishing records. Therefore, the

Government of Japan made a proposal to this effect at the

meeting on June 26, ^{the Indonesian side stated that} ~~which the Indonesian side stated to~~

~~it would take note of~~ ^{it would take note of} ~~take note~~. Subsequently at the meeting on June 29 the Government

of

of Japan proposed to discuss the fishing records of Okinawan fishing vessels with the participation of the representatives of the Okinawan fishing industry. The Government of Japan is determined to continue ^{making} ~~its~~ utmost efforts toward a solution which would be satisfactory to all the parties concerned at the earliest possible time.

~~"Thank you very much, Ambassador John"~~

~~6. (Agenda No. 5, Agreement on Statement to the Press)~~

"Finally, I should like to consult with you on the Press Release. A draft press release was prepared at officials' level and distributed to you. I should like to propose that this press release be distributed to the press and explanation be made in accordance with it. Do you have any objection to this?"

~~(Interpreted)~~

~~(The U.S. side will concur in the proposal)~~

"Then, it is agreed that the press release will be handled along the line I just mentioned."

~~(Interpreted)~~

~~7. (Closing)~~

"I should like to express to you all my appreciation for your co-operation, which has made the smooth proceeding

of

of this meeting possible. I now wish to announce¹² the closing
of the 14th meeting of the Consultative Committee.

Thank you very much."

~~(Interpreted)~~-----

I wish to refer to the question of fishing operations by Okinawan vessels in waters between Indonesian Islands.

Our negotiations with Indonesia with respect to Japanese fishing vessels are now approaching to a final stage, and at the same time, with the approval of the Government of the United States, which maintain administrative rights over the islands, our Government is engaged in talks with the Government of Indonesia in order to make it possible for the Okinawan fishing vessels to operate under conditions similar to those which will be applied to Japanese fishing vessels.

I shall not go into details on this question because the United States Embassy is being kept informed by our officers in charge, but I want you to keep in mind that our Government is making its utmost efforts on this question in our negotiations with Indonesia.